

令和7年度

# 第1回総合教育会議会議録

(開会 令和8年3月24日)

(閉会 令和8年3月24日)

岐阜県可児市教育委員会

令和8年3月24日午後1時30分開会

**出席者**

富田成輝君（市長）

梶田知靖君（教育委員）

瀬川登美子君（教育委員）

堀部好彦君（教育長）

小栗照代君（教育委員）

**欠席者**

長井知子君（教育委員）

**説明のために出席した者**

水野伸治君（事務局長）

木村正男君（学校教育課長）

下園芳明君（教育総務課長）

奥田晋也君（学校教育課主任指導主事）

**教育委員会事務局職員**

木村雄大君（教育総務課総務係長）

伊藤師啓君（教育総務課総務係）

## 開会宣言

- 市長（富田成輝君） 令和7年度第1回総合教育会議の開催を宣言する。

## あいさつ

- 市長（富田成輝君） 本日は議題が4つ。せっかくの機会なので、忌憚のない御意見をお願いしたい。

## 議題1 可児市いじめ防止基本方針の改定について

- 教育総務課長（下園芳明君） 今回の主な改定内容は、国のガイドライン、学校運営協議会や地域クラブ活動など現状に合わせた修正、教育委員会及びいじめ防止専門委員会のいじめの未然防止のための連携、情報共有の改めての明記等、新たに始まった取組や見直しを反映させた。方針の改定について、御意見及び承認を求める。
- 教育委員（梶田知靖君） いじめ対応について、毎回教育委員会会議で報告を受け、学校教育課をはじめ、先生方のいじめに対する初動がとても早いと感じている。子供たちから相談を受ける先生方の対応、それをすぐ上へ報告され、いじめ防止ということではかなり未然に防いでいると思う。
- 教育委員（小栗照代君） 今回の改定について、言葉や用語が変更である旨教育委員会会議で承知しているが、例えば「いじめられる」よりも「いじめを受けた」とか「受ける子」だったりとか、「いじめる子」が「いじめを行った子」というような言い方に変わったと。やはりそういったことを見直していくというのは今の時代、大切だろうと思ひ、こちらの方針の改定を伺った。

梶田委員が言われるように、報告は教育委員会会議で毎月受けているが、上に現状をしっかりと伝えていただいている印象がある。隠すのではなくて未然に防止したり、いじめになりそうなどもしっかりと把握を各学校で行い、いじめがあったときにもしっかりと対応していただいているという印象がある。可児市としてかなりいい方向に、いじめに対して行っていると思う。
- 教育委員（瀨川登美子君） いじめに関して、いじめをしてしまった子供も、いじめを受けたと感じる子供も、ケアが必要だと思っている。教員の方々、地域の方々、いじめにならないまでの段階でも気づいてあげられているところがすばらしいと思う。今後そのような見守る姿勢が大切だと思う。
- 教育長（堀部好彦君） 国のガイドラインにあわせ、細かな文言の調整があった。大切なことは、そういった改正を踏まえて、それを学校にもどう周知していくのか。改めていじめに対する考え方、根本的なところを校長、教頭、教職員に周知していく、徹底していくことが大切である。それがいじめ防止の取組を形骸化させないことにもつながる。
- 市長（富田成輝君） いじめについて、可児市が先に条例を制定して動いた。その後、法律やガイドラインができてきた。制度的に重なっている部分があって、ただ法律的に決まったことはやらなければならない。

可児市の子どものいじめの防止に関する条例は常日頃注意すること、重大にならない

ように考えるというのが可児市のいじめ防止条例だが、国は、何かいじめそのものが悪いことという感じで、極端な言い方をすると。だけど、子供って、いじめするのは当たり前で、そういう中でいろいろ学んでいくので、どれを重大だとみなすというのは、ちょっと難しいところがある。

市のいじめ防止専門委員会委員と皆さんと先生方と協力して、重大にならないように常日頃から注意するというので、若干違うところはある。

なかなか難しい。全くなくなるなんてことはないと思うし、いじめられる子が変になってしまっただけとはいえないが、そういう経験もある意味、大事なところがあるという気がする。また、私が見て思うのは、僕らの頃はまだ子供の中でそういうものを解決する、いじめられる子をみんなでかばってあげたり、いじめるやつをちょっと注意したりというのが中であつた。でも、最近はそういうことはあまり、みんなそういうことをするとまたいじめられるとか、いろいろ複雑になっているようなので大変だが。

いずれにしても、この議題1については認めていただけるということで、この可児市いじめ防止基本方針の改定については、これにて決定とさせていただきます。

## 議題2 可児市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について

- **学校教育課長（木村正男君）** 公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法が改正され、本計画を策定した。

本市の現状は、時間外勤務の月45時間を超える者の割合が、小学校は5月に41.9%、中学校は、4月・5月が53%や50.3%であり、少なくなっているがまだまだ多い。

時間外勤務の月80時間を超える者の割合も、中学校では5月に13.8%である。計画の目標は、月45時間を超える者や年間360時間を超える者、月80時間を超える者をゼロにしていくこと。また、毎年行うストレスチェックにおいて、仕事をしていると活力がみなぎるように感じる、自分の仕事に誇りを感じるという教員の割合を100%に近づけることを目標としている。

計画期間は、4年間。計画の内容の1つは、「業務の3分類」を踏まえた業務の見直し。学校以外が担うべき業務、教師以外が積極的に参画すべき業務、教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務に分類し、見直していく。

今後のフォローアップについて、今後も市として積極的に学校の状況を把握し、ホームページでの公表、教育委員会会議、総合教育会議での報告など、着実な実行をする。

- **市長（富田成輝君）** それでは、順次御意見をお願いしたい。
- **教育委員（小栗照代君）** 学校訪問などで、ICTの活用により教員の業務を簡略化し、時間外業務が削減できている話も伺うが、それでも時間外労働が多くなっているの、しっかりと対策を打っていかねばいけないと思う。

私ごとだが、あるシニアの方、退職されて期間が空いてから支援員をやっている方に会った。内示の次の日ということもあり、また来年も1年間勤めさせてもらえるとすごく喜んでた。そういった力というのはまだまだいっぱいあって、元々学校の先生で空いている方など、ぜひ今以上に有効に御協力いただいて、現役の先生方の助けになるようにしていただけるとよりいいのになと思う。

○ **教育委員（瀬川登美子君）** 私も個人的な友人や他県の職員の方の話だと、管理職は早く帰れと言うけれども、本当にやらなければいけないことが毎日ある。準備にとにかく時間がかかる。でも誰かにお願いすると、自分が思い入れたものが伝わらなかったり、ちょっと気が引ける。でも、子供との接する時間は削りたくない。すごくもどかしい部分もあると言っていた。可児市の教員が同じではないかもしれないが、新規採用職員の方とか、手助けだとか、手厚く、丁寧に業務のほうも管理していただけるとありがたい。子供も、教員の方の精神衛生上も、時間外労働とか、毎日の積み重ねだと思うので、管理というのは大事かと思う。

○ **教育委員（梶田知靖君）** 1か月45時間という、働き方改革、働き方改革って言い出したのは二、三年ぐらいたちますか。世の中が。

今、瀬川委員が言われたとおり、若い先生方は特に最初の初年度というのはなかなか大変だと思う。計画を策定し、このとおりにいくかどうか、難しいかもしれないが、可児市は初任者指導の先生などサポートがあるので、そこまで負担はないのかなと思う。ただ、7時、8時でも、今渡南小学校の近くを通ると職員室に電気がついていたりする。なかなか残業は減っていかないのかなとも思うし、どういう方法がいいのか、今すぐは思いつかないが、計画を策定して、それを先生方にうまく当てはめることができればいいと思う。教育委員としても力になっていきたい。

○ **市長（冨田成輝君）** 学校は子供を育てる場かというところから本当は議論しなければいけないと思う。元をたどると自分たちで広げ過ぎている。文科省が守備範囲をすごく。僕らが子供の頃、先生はそこまでタッチしていなかった。例えばクラスの間でいじめなんか起きると、僕はどっちかというリーダーのほうだったので、先生に叱られた。おまえがいながら何をやっているんだと。俺は忙しいんだと。それでよかった。

だから、これは可児市だけではできないが、国全体の考え方として、学校というのは一体どういう場なんだというところから議論しないといけないと思う。もっと単純に言えば、勉強を教えるのと体を鍛える場所。それ以外のところは関係ないと言いたい先生もいるのではないかと思うが、少しそういう面はある。これは先生以外の公務員もそういうところがあって、すごく守備範囲が広がっている。

先生も含めた公務員の守備範囲が本当はどこまでかというのは、根本的に議論しないと、なかなか先生方がやっている分野ってどれだけでもある。本来は、学力と体力をつける場所というのが基本のはずだが、そんなことを言っていられない。計画を見ると何とか少し時間外は減っていると見受けられる。

○ **教育長（堀部好彦君）** 本当に今の市長の御発言、大きくうなずいてしまったが、私からは2点。月当たりの平均時間外の在校等時間が、令和2年から令和6年度にかけて小・中、減っているところ、学校の努力が見えるが、小学校・中学校で差もある。それとともに、同じ小学校、同じ中学校でも学校ごとで違う。非常に少ない小学校、少ない中学校がある。

なぜ同じ校種でも差があるのか、少ない学校はどんな努力をしているのかという学校間で学び合えることもあると思った。

それから2点目。この計画は当然つくっただけではなくて、周知をして、それで見直しをしながらということになる。特に業務の見直しの中身。さらに効果的なものを付け

加えたり、修正したりとなる。それをどの場でやるのかと考えたときに、学校運営協議会、コミュニティ・スクールの仕組みを活用して、議題にする。

学校運営協議会でこれを議題にすることで、先ほど市長が言ったように、学校は何をやらなければいけないのか。保護者がやるべきこと、地域がやるべきことという視点も加えながら、この見直しが進んでいくとよい。

質問だが、この実施計画の今言ったような学校運営協議会で議題にしてという話はどこまで進んでいたか。

- **学校教育課長（木村正男君）** 校長会の中で、そういう話題も出すようにということで、次年度のスタートから取りかかる。学校の実施計画は、学校運営の基本方針として学校運営協議会の承認が必要になる。
- **教育長（堀部好彦君）** 事務局、学校教育課からの働きかけ、話題にさせていただけるとありがたいと思う。よろしく願います。
- **市長（富田成輝君）** 学校ごとの残業時間数など、そういう資料があると非常にいいかと思うが。

教育委員会とか学校は市長部局と違って、市長部局は私が絶対権限を持っている。だけど、学校は校長の権限が結構きつい。これは法律で決まっている。だから、校長によっては、あまり残業をなくすことに熱心じゃない方もいるかもしれない。相当言い方は悪いが、すごく熱心な校長だと残業が増えるような気がしなくもない。各学校の校長の方針とか学校の方針は、物すごい分厚い、書いてあることも。例えば市長部局だと、できるだけシンプルにしている。学校はすごく丁寧なんだろうと思う。あれを作るだけで、すごい時間がかかると思うが、そこの辺りが教育の難しいところだとは思う。だから、なかなか難しい。

- **教育長（堀部好彦君）** 確かに校長の考え方で学校は変わると思う。
- **市長（富田成輝君）** 全然変わると思う。やっぱり今のシステムだと。

あとは、今、人事課では開庁時間を短くしようとしている。そのくらいやらないと残業って減らない。海外は、アメリカでも、ほかの国の人に聞くと、結構早く閉める。だから、ちょっと住民に寄り添い過ぎている。果たして、それで住民サービスができるのかと、逆に。その時間を短くすることで、余裕を持ってサービスをしっかりやるのではないのかと。

だから、例えば先生も、親に対する対応は何時で終わり。4時以降、電話を受けないと。その代わりに、その時間でいろいろ子供のことを考えると、何かそういうことを、勝手に可児市だけやっていいのかどうか分からないが、カスハラ対策も、今年から庁舎では警察のOBを1人追加して、市役所を巡回してもらって、大きな声がするとすぐ向かってもらうように変えてから、大分減った。そういう物理的なことも、これも校長の考えがあってなかなか難しいかもしれないが。

- **教育長（堀部好彦君）** 保護者の苦情をカスハラと言えない教育と、他の業務との違いというものもあるかもしれないが、まずは話を聞くという姿勢で。
- **市長（富田成輝君）** 過度に丁寧な対応を見直すなど、特に子供に接する時間を多くするために、学校に対するいろいろな意見があるだろうが、任せておいてくださいとか。事務局どうぞ。

○ **学校教育課長（木村正男君）** 今、市長の話のとおり、ここ数年、学校は電話を受け取る時間を区切って、5時とか5時半になったら留守番電話に切り替えている。それによって、職員から、すごく負担は減ったと聞いている。

○ **市長（富田成輝君）** もっと短くしてはどうか。

○ **学校教育課長（木村正男君）** また議論して進めたいが、そういう改善も必要かと思う。

○ **市長（富田成輝君）** 岐阜県で私が総務部次長のときに裏金が発覚して、私はその対策の責任者になったときに、毎日のように県庁中に苦情の電話がかかってくる。それで対策室をつくって、もう苦情の電話は全部そこで受けると。だから、親からの苦情を統一的に聞いたり。

そういうカスハラとは言わないかもしれないが、親に対する時間を、やっぱり子供の時間を大事にするために制限するということは、説明すればPTAは分かってくれると思う。可児市のPTAって。今回の給食の無償化の問題も、やっぱりPTAの皆さんに聞くと、無償化ってほとんど言わない。それよりも栄養価の高い、おいしいものを出してやってほしいと。

では、いろいろ難しい問題があるが、この件については少しずつでも改善をお願いする。

### 議題3 熱中症対策について

○ **教育総務課長（下園芳明君）** 令和8年第1回定例会、3月議会の冒頭に市長が令和8年度の市政運営に関する所信を述べられたなかで、「子どもの笑顔と子育て世代の安心づくり」、これは市の4つの重点方針のうちの一つになるが、学びの場である学校環境の整備も、という箇所から教育委員会所管分がある。

近年の厳しい暑さ対策として、小・中学校に冷水器を設置するとともに、体育館への空調設備の設置に向けた準備を進め、設置が完了するまでの間はスポットクーラーを配備する。また、登下校時における暑さ対策として、子供たちの熱中症のリスクを低減し、安心して登下校ができるよう、児童・生徒への塩分タブレットの配付を行うほか、地域の方や事業所の皆様の協力を得て、休憩スポットであるみまもりオアシスを整備し、地域全体で子供たちの健康を守る体制を整える。

水泳授業については、天候に左右されない民間の屋内施設へ実施場所を切り替え、専門インストラクターによる丁寧な指導を組み合わせた、より充実した学びを提供してまいりますとある。

また、資料にはないが、夏季休業日について、現行8月28日までを8月31日までに延ばすよう進めている。このように教育委員会としてハードやソフト両面で学校の熱中症対策を進めている。

○ **教育委員（瀬川登美子君）** 熱中症対策について、すごく力を入れてくださっていると日々感じている。以前はウォータークーラーがあったかと思うが、コロナを経て、ウォータークーラーがなくなったと。私も子供に確認して、今はないよねと話をした。近年、どうもウォータークーラーはあまり置かないところが増えてきたと聞くが。

○ **学校教育課長（木村正男君）** 置いてある学校と置いていない学校がある。置いた理

由は分かりかねるが、コロナの影響で、衛生上の理由もあって、やめた学校もあると聞く。

- **事務局長（水野伸治君）** 冷水器は令和8年度の予算で学校に設置していく。整備する予定の冷水器は、口で直接飲むタイプではない。子供は水筒を持っているので、学校の時間外や帰る前などに水筒に冷たい水を入れることを想定し、水筒をあてると冷水が出るものを計画している。
- **教育委員（瀬川登美子君）** 水筒のお茶がなくなったときに、水道のお水を入れるのはちょっと気が引けると結構聞くので、ウォータークーラーがあるといいと感じていた。
- **教育総務課長（下園芳明君）** 4月当初から早期設置に向け進める予定である。
- **教育委員（梶田知靖君）** 前回の教育委員会会議で、こちらの報告を受けた。今校舎は普通教室をはじめ、特別教室にもエアコンがついて、子供たちはとても快適に過ごしている。体育館も空調設備を入れるということで、私も教育委員会会議で意見を申し上げたことがあるが、体育館に空調設備を設けることによって、災害時の避難所として指定されているので、多方面で利用できる。体育館の空調設置について早く取り組んでいただきありがたい。

また、夏休みが来年度から8月末までになるということ、ある校長に話をしたら物すごく喜んでいて。先生方にもうれしいニュースかと思う。

- **市長（富田成輝君）** 体育館は、今まではできるだけ風通しのいい造りになっている。エアコンを入れると、逆に風通しを悪くしなきゃいけないので、結構お金がかかる。1校当たり1億円ぐらい。

学校にエアコンを整備したのも、可児市はこの近辺では早いほうだった。あのときは教育委員会の意見が分かれて、厳しい方は甘やかし過ぎだと。このぐらい我慢させよという話になった。仕方がないので、各学校の先生、しかも若い先生、直接子供たちを教えている先生に市長室に来てもらって、皆さんから意見を聞いたら、圧倒的に入れてほしいということだった。現場の声を聞いて決定させていただいた。中学校か小学校を最初の年にやって、翌年やろうとしたら、文部科学省がエアコン設置に補助をつけないと決めて、それで国の補助金が一切来なくなった。それで、議会からどうするのかと言われて、全額市の費用で設置した。

あれは耐震化か何か、そっちに予算をつけると文部科学省が決めて、あのとき頭にきたけど、ということも懐かしく思い出した。

ただ、今回はあと3年以内なら補助金をつけると、一応文部科学省は言っているので。可児市は何年で設置予定だったか。

- **事務局長（水野伸治君）** 令和9年度、令和10年度で完了の予定だったが、令和9年度で全て完了という方向で考えている。
- **市長（富田成輝君）** 早くやったほうがいい。
- **教育委員（小栗照代君）** 学校に行くと本当に暑いし、教室にエアコンが入り、子供たちも快適に過ごせているので、本当にありがたいと思う。

それから、水泳の授業でも、夏すごく暑くてほとんど授業にならない状態で、2時間目だともうプールに入れなないことがあると聞く。民間に全部委託ということで本当にありがたいと思う。その分、学校でプール以外の体育の授業を夏に行うことになるので、

体育館が涼しくなると、より快適に子供たちがこの暑い中、過ごせると思う。

○ **市長（富田成輝君）** 最近の子供は、家庭でみんなエアコンが入っているので、自分で体温調節ができなくなっていて、温度が上がると、すーっと体温まで上がって、温度が下がると体温も下がってくるので、危ない。だから、僕らが思う以上にエアコンは大切と思う。

○ **教育長（堀部好彦君）** 教育委員の皆さんに確認含め話題にしたいが、熱中症対策に関しての議会の一般質問、何回か答弁しているが、一貫して言っているのは、可児市の熱中症対策は総合的に考えていきたいと。具体的に言うと、自助・共助・公助というその3つで、みんなで総合的にやりたいと。

今、この市政方針で事務局から説明があった部分は、本当にまずは公助の部分で様々なことに税金を使わせていただけるということで、市長の御英断、それから議会の御理解に本当に感謝している。水泳授業の委託も含めて、本当にお金を使っていただけしている。

では、共助って何かというと、ここに記載のあるみまもりオアシスである。何と可児市300以上の事業所、地区センターも含めて300以上の事業所に御理解をいただき、子供たちが安心して登下校できる環境に協力をしていただけていること、本当にありがたい。

では、自助とは、保護者に、睡眠時間の確保、食事、朝ごはんを食べて送りだすなど、子供がそういった生活ができるような子育てをお願いします。どれだけ学校の環境を整えてあっても、朝御飯食わずに出てきたら倒れてしまう。暑くなくたってそうだが、そういった協力を求めている、全体で総合的にやりたいというのが可児市の熱中症対策ということで御理解いただきたい。

今、可児市の総合的な熱中症対策を保護者や地域の方にアピールできるものを、1枚物で、図解で分かりやすく作ってほしいと事務局をお願いしている。出来たらまた見ていただきたいが、これは市長の新しい方針に「住みごこち一番・可児“+（プラス）”」があるが、そういったチラシで、市内の教職員、保護者、地域の方々が熱中症対策を理解していただくことが、本当に子供たちの住み心地を可児市は考えていることを宣伝することになるのではないかと思う。

○ **市長（富田成輝君）** 教育長の言うとおりの自助・共助・公助、順番もだがそこが最近非常に、本来自助でやるべきところへ公助、公助というのがある。そういうことをやっていたら多分世の中はぐちゃぐちゃになってしまう。税金を使うのは最後で、まずは自分たちでやることはやる。自分たちでやれないところはみんなで作ると。

だから自治会も、それがなくなってきたので、要らないのではないかという話がある。全部それを公助でやるという流れがあって、そこが基本的に分かっていなくて、自分でやるべきことをやらないとか、自分の商売、そこを公助に使おうとか、そういう考えがちよっと増えている。そこはチラシ、それは夜遅くまで寝ずにゲームをやっていたら、睡眠時間が足りないのでもちよっと暑いと倒れてしまうと。そういうことを掲げていただくのは大変ありがたいし、可児市の事業所は本当に応援して下さる。いじめの見守り活動も、すごく多くのところが協力して、応援してやってくれているのでありがたい。

だから、公助で使うべき税金を本当に必要なところに、今のエアコンとかそういうところへ使えるので、教育委員会でPRしていただけるとありがたい。

他御意見よろしいか。

[挙手する者なし]

#### 議題4 学校規模適正化について

- **教育総務課長（下園芳明君）** 可児市学校規模適正化に関する基本方針は平成25年3月に策定され、令和3年3月に改定された。この方針で、校区別の学校規模適正化の考え方が述べられている。

例えば、蘇南中学校。今後、適正な規模を大きく上回る状況が継続し、教室の改修や増築で解消することが困難になると予測される場合には、通学区域の変更も選択肢として検討する必要もあると述べられている。

一方、西可児中学校。広陵中学校の生徒数の減少が継続する場合には、広陵中学校との統合に向けた検討も必要になってくると述べられている学校もある。

この基本方針は、児童生徒数を根拠に検討されているが、当然学校の施設は古くなる。今年度、施設が今後修繕等にどのぐらいかかるかという施設個別計画の見直しを行った。市全体の建物等の修繕費用が増大する中で、児童生徒数が少なくなる学校で建て替え時期に当たる学校は、修繕等ではなく、近隣の学校に集約することを早急に検討するようにと、そういった話が出てきている。また、義務教育学校や小中一貫校といった新たな学校制度の仕組みもある。

そこで、今後検討委員会を立ち上げ、小・中学校の規模の適正化を改めて見直そうと考えている。

- **教育委員（梶田知靖君）** この資料を見て、蘇南中学校の校区の見直しが気になった。校区の見直しは大事だと思っていて、市長、こういう校区の見直しは、地元の自治会、自治会長だったり、そういった方々の意見もあって難しいと思うが。
- **市長（富田成輝君）** 今は具体的に校区の見直しの話は上がってきていない。以前、兼山小学校の話があったが、今は、逆に西可児中学校と広陵中学校の問題があるということ。
- **教育総務課長（下園芳明君）** 西可児中学校と広陵中学校、あと帷子小学校と南帷子小学校も同じく、建て替えの時期が来るので、それを機に統合の検討という話が出てきている。  
あと、今市長が言われた兼山小学校も建物が古くなってきて、改修する時期が近々来る。そのときにまた建て替えるかどうか検討という話もある。
- **市長（富田成輝君）** ほかのまちだと逆に親から、少人数よりもたくさんの子供たちの中で教えてほしいから合併してほしいという、七宗町とか、恵那市とか。兼山はもともと可児とは違っていたので、違いがあるかもしれない。
- **教育委員（梶田知靖君）** そうだと思う。兼山小学校の子供たちって本当にほのぼのとしていて明るくて。今はこの教育委員という立場だが、業者という立場で行った際に、本当にわーっと寄ってきて。
- **市長（富田成輝君）** そうそうそう。本当にかわいい。
- **教育委員（梶田知靖君）** すごいかわいらしい感じで、可児市のほかの15校とはちょっと違う雰囲気。なので、確かにこの先コストはかかるだろうが、ああいう兼山小学校

のような学校も大事ななどは。

- **市長（冨田成輝君）** 確かに。びっくりしたのは、私も年に1回授業に行くが、校長室で校長先生としゃべっていたら、とんとんとたたいて、ぱっと開けたら子供たちが3人入ってきて、走り回って、ソファの下へ潜り込んだりして、しばらくしたら、ありがとうございましたって出ていく。校長室が遊び場になっているんだって。

だから、尾木ママが最初に1年目、全小・中学校を回って、終わった後に、「やっぱり今までは適正規模というのがあるというように私も考えていたけど、兼山小学校みたいなところ、そして逆に今渡北小学校みたいなところ、蘇南中学校みたいなところを見ると、適正規模って何だろうとやっぱり思う。小さいところは小さいところなりのよさも課題もあるし、大きいところは大きいなりの課題もある。それぞれよさがあって、いい勉強になった。」と言っていた。

だから、教育的な目じゃなくて、やはり行政として効率的に税金を使うという立場の適正規模と、子供たちの成長という意味での、だから地域性という意味での適正規模はまた違うので、その言っている適正規模というのは、どちらの目で言っているのかというのは非常に難しい。

だから、行政の財政負担、可児市の市民の皆さんの税金を使う適正規模というのと、やっぱり本当に子供たちのために結構金はかかるので、小さいとはいえども。それが、税金を費やすという意味での適正規模と、子供たちの教育という意味での適正規模は違うので、そこは難しいところ。

- **教育長（堀部好彦君）** 本当にそのとおりだと思う。それから尾木ママの感想も大変納得できるところがある。私自身いつも常に校長先生方に求めてきたのは、特色ある教育活動、こんな子供を育てたいということ踏まえた上で特色ある教育活動をとってきた。それが本当に小規模校、大規模校、それぞれ課題はある、マイナス面もあるが、よさを、強みを生かした教育活動を各学校で展開していることは大変ありがたい。

一方で、財政の今後30年、40年、50年後を見通したときに、今の箱物をそのままずっと残すのかと。それが可能かどうかというところの議論を今担当がやっているが、そこも踏まえたときに、僕としては、小規模のあの兼山小学校は何としても残して、子供たちの学習環境を守りながら今の子たちのよさが光るようなものを残す。大規模も、大規模校をなくすというのはなかなか難しいと思うので、規模はなかなか変わらないかもしれないが、今言った、外国の子たちもたくさんいるという状況も強みとして捉えてやっていくような経営を続けていく。

では、箱物はそのままなのかということだが、一部の学校は、例えば小中一貫校だとか、それから義務教育学校だとか、そういった制度を取り入れながら特色ある教育活動を展開していく。それを市全体として捉えたときに、可児市はいろいろな規模の、いろいろなスタイルの学校がある。その学校の経営をお互いに学び合いながら、可児市の教育を進めていっているというようにできないかと。財政の問題を前面に出すのではなく、学校の特色ある教育活動をさらに推進していく、その過程で義務教育学校を取り入れていく。それが同時に、30年後、40年後の財政を見通した取組にもなっているということできるとよい。

- **市長（冨田成輝君）** お金は、私が就任1年目に約束した公共施設整備基金100億円、

財政調整基金100億円という目標は去年達成した。ただ物価高が大変なので。学校は本来の子供を育てるという意味での適正規模というのは、いろいろ多様性があった方がいいと思う。

兼山小学校に行ったときに、2人ほど引っ越して、兼山小学校へ来られた子がいて、いろいろ話をした。その後、金山城に門が返ってきた、城門が。そのイベントに行ったら、その小学校6年の子たちが五、六人来ていて、私に、あー、市長さんといって向こうが手を振ってくれて、私が車に乗って帰ろうとしたら、市長さん、車に乗っていいですかと。ええよ、どうぞと言ったら、ばーっと乗って、中で大騒ぎして、先生があわててしまって。

本当にかわいい。今は共和中学校で頑張っているだろうと思う。財政の問題と、もう一つ大事なのはそういったことかと思う。

- **教育委員（小栗照代君）** 小規模特認校のときも、やっぱり地域の方であったり、保護者の方だったりややっぱり残してほしいという意見がかなりあり、そのとき決定ではなくて、しばらくはそういう形で残しながら、ほかの学校から来ていただいてという話になっていて、どこかでまたその話題が出てくるだろうと思う。また、保護者の方々もメンバーが替わって、地域の方々もメンバーが替わって、どういう思いであるか、再度アンケートを取って、以前のように考えていかなければいけない時期が来るのかなと思った。
- **教育委員（瀬川登美子君）** 私も地域性はとても大切だと思っていて、私の担当の地域には春里小学校、南帷子小学校、帷子小学校があるが、帷子小学校はそのまま広陵中学校で1小1中である。春里小学校と南帷子小学校は西可児中学校へ一緒になって行くが、やはりそれぞれすごく特色があって、そもそも春里小学校の区域も南帷子小学校の区域も、若葉台が2つに割れるときも自治会でもいろいろ意見があったと聞くので、推移するのを見守りながら、意見を聞きながらが一番良いと思う。
- **市長（富田成輝君）** ありがとうございます。事務局他によいか。
- **事務局長（水野伸治君）** はい。
- **市長（富田成輝君）** 予定の4つの議題が終了した。その他、御意見等あれば伺いたい。

〔挙手する者なし〕

#### 閉会の宣告

- **市長（富田成輝君）** それでは、以上で議題をすべて終了したので、これにて総合教育会議を閉会する。

閉会 午後2時43分